

明石海峡大橋開通前後の交通機関選択に関するアンケート調査分析

四国建設コンサルタント 正員○藤本 啓介
徳島大学工学部 正員 青山 吉隆
徳島大学工学部 正員 近藤 光男

1. はじめに

明石海峡大橋開通による神戸・鳴門ルート of 全通は、徳島県や四国における産業や県民生活に大きな影響を与え、地域の将来的発展に大きく寄与することが予想される。そこで本研究では、現在の徳島-阪神間および徳島-東京間の交通機関利用特性を明らかにし、さらには明石海峡大橋開通後の交通機関利用に関する意向を分析することにより今後の交通計画の基礎資料を提供することを目的とする。

2. 交通機関利用に関するアンケート調査と分析内容

表-1 配布部数と回収率

	配布部数	回収部数	回収率
徳島（モニター）	199	147	73.8%
徳島（一般）	1400	692	49.4%
阪神地域	399	150	37.6%
合計	1998	989	49.5%

2.1 アンケート調査概要

データを得るための調査は、「明石海峡大橋開通後の徳島-阪神間の交通機関利用に関するアンケート調査」と題して、平成3年10月に行った。配布および回収状況は表-1に示すとおりである。

このアンケート調査では、

表-2 アンケート調査の質問内容

表-2に示すように徳島在住者と大阪在住者に対して現在の旅行状況、明石海峡大橋開通後のバスおよび自動車の利用、個人属性などについて質問を行った。また、旅行の目的については、仕事と自由（観光、レジャー、買物、友人訪問など）を考慮した。

質問内容	旅行目的	対象者
1年間の阪神方面への旅行回数（数量回答）	仕事 自由	徳島 大阪
そのうち、1人での旅行回数（数量回答）	仕事 自由	徳島 大阪
その時、最もよく使う交通機関（8者択一）	仕事 自由	徳島 大阪
会社からの旅費の支給（2者択一）	仕事	徳島 大阪
交通機関選択の自由度（2者択一）	仕事	徳島 大阪
1年間の東京への旅行回数（数量回答）	仕事 自由	徳島
その時、最もよく使う交通機関（5者択一）	仕事 自由	徳島
徳島駅-大阪駅間の交通機関選択（4者択一）	仕事 自由	徳島 大阪
明石海峡大橋開通後のバス選択特性	仕事 自由	徳島 大阪
明石海峡大橋開通後の自動車選択特性	仕事 自由	徳島 大阪
個人属性（現住所、性別、年齢、職業）		徳島 大阪

2.2 分析内容

本研究では、以下のような分析を行った。

(1)現在の徳島-阪神間および徳島-東京間の

旅行特性の分析

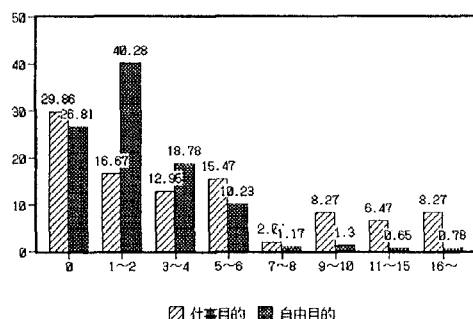
(2)明石海峡大橋開通後のバスと自動車の選択

特性に関する分析

3. 現在の徳島-阪神間の旅行特性

まず、徳島在住者の阪神方面への旅行回数は、図-1のように、自由目的では年間1~2回の人40%で最も多く年間5~6回以下の人ほとんどであるのに対し、仕事目的では各回수에散らばっていて年間10回を超える人が2割程度いる。なお、目的別の平均旅行回数は仕事目的では5.4回、自由目的では2.3回で、

%



▨ 仕事目的 ■ 自由目的

図-1 年間旅行回数（回／年）

〔仕事vs自由〕（徳島在住者→阪神方面）

やはり仕事目的の方がかなり多くなっている。

最も多く利用する交通機関は、図-2にあるように仕事目的の場合は高速船（徳島-大阪間の高速船・和歌山港経由のシャトルライン）が45%、飛行機が24%など、高い費用が必要であるが短時間で目的地へ到達できる交通機関が利用され、合計で69%を占めている。

次に、最も多い利用交通機関を、徳島在住者と大阪在住者と比較すると大きな特徴が見られた。仕事目的の場合でみると、図-3からわかるように大阪在住者の四国への旅行で自動車利用（徳島-阪神間フェリー・大鳴門橋経由の淡路島-阪神間フェリーを含む）の割合が40%を占め、徳島在住者の20%の2倍となっている。この理由としては、大阪・神戸の中心部では私鉄・地下鉄などの普及が進んでおり自動車なしでも自由に移動できるのに対し徳島県及び四国の他の3県ではそれらの普及があまりないため自動車での移動が中心となっていることなどが考えられる。

4. 明石海峡大橋開通後の交通機関選択特性

明石海峡大橋開通後の高速バスの利用に関する意向調査は、開通前に利用する交通機関と開通後に利用できるバスとの一対比較質問によって行った。このときバスの所要時間と費用に表-3に示すようないくつかの条件を与えたが、これに対する利用の意向の一例を図-4に示す。このように、条件によってバスの利用の意向に違いがあること、また条件によってはかなりの利用が予想できることがわかった。開通後の交通機関の意向分析に関しては、紙面の都合上結果の一部のみを示したが、他の部分については講演時に発表する。

表-3 バスの所要時間と費用

	A	B	C	D	E	F
所要時間	3時間	3時間	3時間	3.5時間	3.5時間	3.5時間
料金	4000円	5000円	6000円	4000円	5000円	6000円

5. おわりに

本研究では、明石海峡大橋開通前後の徳島-阪神間の利用交通機関の特性分析を行った。その結果、現状においては、旅行目的や居住地別による利用交通機関の違いを明らかにすることができた。また、開通後は、条件によってはバスや自動車を利用されることもわかった。

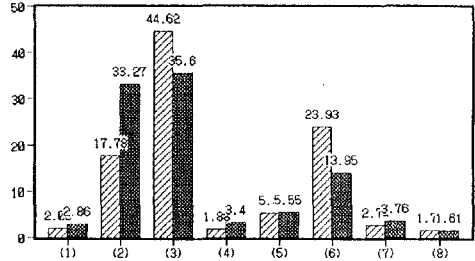


図-2 最も多い利用交通機関

〔仕事vs自由〕（徳島在住者→阪神方面）

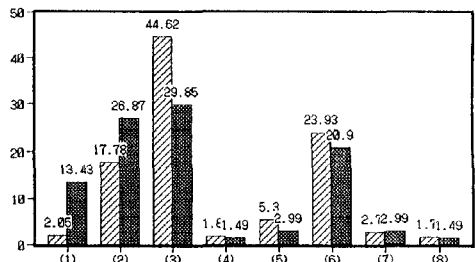


図-3 最も多い利用交通機関

〔徳島在住者vs大阪在住者〕（仕事目的）

徳島-大阪間の利用交通機関の凡例

（1）自動車利用で、徳島-阪神間フェリー

（2）自動車、大鳴門橋、淡路-阪神フェリー

（3）徳島-大阪間の高速船

（4）徳島-阪神間のフェリー（旅客として）

（5）大鳴門橋経由のバスと高速船

（6）飛行機

（7）JR

（8）その他

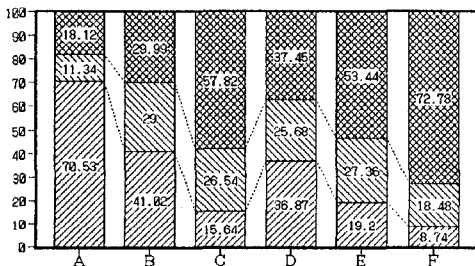


図-4 明石海峡大橋開通後のバス選択特性

（徳島在住者→阪神方面）（仕事目的）